

農 大

令和5年10月27日発行
愛知県立農業大学校

令和5(2023)年度版

だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



CONTENTS

- 1 専攻紹介 酪農専攻
- 2 専攻トピックス
- 3 クラブ紹介 (野球部、バスケットボール部)
- 4 研修生 OB 紹介
- 5 トピックス
生産高度化研修 (カンキツ及びブドウ)、
特別推薦入学試験の実施、
農業高校農場長との意見交換、和歌山県議会の視察研修
- 6 お知らせ
令和6年度入学者選抜試験、岡崎市農林業祭への出店
農大祭 2023 の開催

愛知県立農業大学校
公式HP



Instagram 



X (旧 Twitter)



専攻紹介

酪農専攻

酪農専攻では、搾乳牛 21 頭、育成牛 23 頭、肥育牛 11 頭、和牛 7 頭を飼養しています。学生は 1 年(15 名)、2 年(9 名)合わせて 24 名で日々搾乳や育成管理などの作業を行っています。多くが非農家出身で中には農大に入学してから初めて牛と触れ合う学生もいますが、半年ほどで皆管理できるようになり、日々逞しく成長しています。

毎日作業を行う必要があるため大変な一面もありますが、その分実践的な技術を楽しく身につけることができます。



搾乳

搾りますよ～！
蹴らないでね…



待機中

毎日する主な

～管理内容～

搾乳
餌作り&給餌
除糞
哺乳
など



餌作り

1 回約 600kg の餌を
ミキサーで作ります



給餌

いっぱい食べるんだぞ～！

ミルクもっと
ください！

私たちがごはんはまだなの？



哺乳



育成牛
給餌

今やるから待って～！



除糞

うんち捨てて
きます！

～牛が牛乳を出すようになるまで～

牛乳は本来、人と同じで生まれてくる赤ちゃんのためのものです。1頭の牛が牛乳を出すようになるには生まれてから早くとも約2年はかかります。酪農専攻では生まれてからお乳を出すまでじっくりお世話することができます。



みんなの推し牛

トウフちゃん

今年の1月に第2子を出産しました。顔が白く最初に覚えられる牛です。



トトロ

今年の4月に生まれたばかりの子牛です。品種はジャージー種。子鹿のような可愛らしいアイドル。



専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

○専攻別学生数

（注）カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	7 (2)	5 (1)	9 (2)	15 (5)	14 (7)	15 (3)	15 (6)	10 (3)	90 (29)
2年	3 (1)	7 (2)	5 (1)	10 (0)	15 (7)	13 (3)	9 (6)	8 (4)	70 (24)
計	10 (3)	12 (3)	14 (3)	25 (5)	29 (14)	28 (6)	24 (12)	18 (7)	160 (53)



酪農

稲わらを集めています！

稲刈りの季節になりました。酪農専攻では毎年作物専攻の田んぼから稲わらをいただいております、回収後は乾燥させて肥育牛に給与しています。

稲わらは日本では古くから牛の飼料として使われていますが、特に黒毛和牛を肥育する際には欠かせない飼料です。稲わらを給与することで脂肪が綺麗な白色になるのに加え、サシが多く入った等級の高い肉を生産することができます。たくさん回収して農大の肥育牛の品質も向上させていきます。



養豚



養鶏

～卵を産み始めました～

9月に成鶏舎に移動した鶏たちが卵を産み始めました。

鶏たちは、今年の異常な暑さにもめげず、また、近頃の朝夕の温度差にも適応してしっかり成長してくれました。もちろんこの成長の陰には、毎日汗まみれで管理してくれた学生の努力を忘れるわけにはいきません。学生たちが愛情込めて管理した鶏たちが産んだ卵は、まだ小さく、正規のサイズになるにはもうしばらくかかりますが、これからも管理の手を緩めず鶏たちを飼っていきましょうと思います。

なお、今産んでいる少し小さな卵は、「あきたま」としてお値打ちに販売しておりますので是非お買い求めください。





「the 北海道ファーム」で北海道の水田作を学ぶ!!



作物果樹専攻では10月10～12日に県外学習を実施しました。その中で、北海道夕張郡栗山町で水田作を営む農業法人である「the 北海道ファーム」を訪問しました。北海道ならではの大規模な農業に加え、六次産業化や売り先を工夫するなど、儲かる農業を実践しており、学生たちも熱心に聞き入っていました。

米粉のソフトクリームや米粉プリン等もとてもおいしく、お米の可能性を感じることができました。



県外学習で、北海道の「どこか農場」を訪問♪



果樹専攻では、10月11日(水)、北海道中富良野町にあるベリー園「どこか農場」で県外学習を実施しました。「どこか農場」は岡崎市出身の武田守弘氏が脱サラして始めたファームインや手作りジャム工房などを併設する有機ベリー園です。

学生は、独立就農時の武勇伝やどこまでも自由な発想から始める園作り（カフェ、山羊園、ツリーハウスなど）に魅了され、好きな事を突き詰め実現していく姿に強い関心を持っていました♪



シンビジウムの山下げをしました！



7月上旬に山上げをしたシンビジウムたちが、10月3日(火)農大へ帰ってきました。この日は2年生3名と職員3名で200鉢近いシンビジウムをトラックに搬入し、山下げをしました。3カ月ほど、冷涼な設楽の山間地に置いたことで花芽がしっかりついていました。

今後、伸びた花芽に支柱を立てて誘引し、12月の農大祭に向けてお客様へ販売できるよう鉢緑専攻一同、心を込めて作りたいと思います。



校外学習に行きました！

2年生7名が知多地域へ校外学習に行きました。まず、スプレーギク農家の榎原氏の圃場を見学し、環境モニタリングサービス「あぐりログ」の活用事例について学びました。また、現場でのスプレーギクの栽培管理方法、病虫害防除方法を学びました。

次に、ユリ農家の平松氏の圃場を見学し、農大ではあまり扱ったことのないユリの栽培管理方法を学びました。

榎原氏、平松氏とも大変熱意のある方で、御自身の経営理念について熱く語っていただきました。また、学生と年が近いこともあって会話が弾み、学生のほうからも積極的に質問が出るなど、終始和やかな雰囲気で見学が進みました。大変勉強になりました。



平松氏の説明を受ける学生



キュウリの収穫が始まりました！

施設野菜専攻では冬場にキュウリ、トマト、ミニトマト、ナスを栽培しています。

キュウリは9月上旬に定植し、今では学生の身長を追い越して順調に生育しており、学生達は特に誘引作業に苦労しながらも頑張っています。

10月に入ってからはいよいよ本格的な収穫シーズンとなるため、来年春まで収穫を続けられるように、冬場の草勢管理や病害などの管理に気をつけていきたいです。



10月は定植や管理で大忙し！！

9月から10月にかけて露地野菜専攻は、毎週のように定植や薬剤散布、管理作業が続いていて大忙しでした。

今年は気温が高いこともあり、苗の成長、草の成長、虫の増殖の全てが例年よりスピードアップし、例年以上に作業に追われていました。ここ最近、気温が下がってきたのでこの作業にも終わりが見えてきて、そろそろ一息つくことができそうです。収穫できる野菜も少しずつ増えてきて、手塩にかけて育てた野菜が収穫でき学生たちは嬉しそうな様子でした。



※ 各専攻の様子は、農大のインスタグラム、ツイッターで情報発信しています。

学生クラブ紹介

野 球 部

部員数 15名
(部員12名、マネージャー3名)
活動日時 木曜日 16:30～
活動場所 農業大学校グラウンド



こんにちは野球部です！私たちは週に1回、農大のグラウンドでノックやキャッチボールなど練習に取り組んでいます。部活動の雰囲気も良く、チーム一丸となって楽しく活動しています。試合には全員が出場できますので、興味のある方はぜひ一度見学を兼ねて遊びに来てください。野球が大好きな方、経験者はもちろん初心者の方でも大歓迎で、いつでも部員を募集中です！！

バスケットボール部

部員数 14名
(男子12名 女子2名)
活動日時 月曜日 17:00～
活動場所 体育館



こんにちは！バスケ部です。部活では主にゲーム形式の練習をしており、経験者・未経験者関係なく仲良くプレーしています。

未経験の部員も多い中、今年の東海近畿スポーツ大会では、白熱した試合を繰り広げ、3位という成績を収めることができました。他県の農大生とも交流することができ、有意義な大会となりました。来年も良い成績を収めるために、学年関係なく、前向きに練習に取り組んでいます。

OB紹介

農家になって頑張っている研修生OB

2020年度ニューファーマーズ研修受講生

就農3年目

輝農園 代表 柴田知輝さん 年齢 38歳 ※JA あいち三河岡崎市いちご部会

① 就農地：岡崎市内、② 栽培品目：イチゴ30a、③ 労働力：自家1人、パート6人

●きっかけは

非農家出身の友人が新規就農(ナス農家)して生計を立てていることを知り、興味本位で手伝いに行くうちに農業に魅力を感じたから。



●イチゴを選んだ理由は

ナス農家の友人から、JA あいち三河でイチゴ農家を募集していることを教えてもらい、実際にイチゴ農家の採りたてイチゴを味わって美味しさに感動したため。

●就農にあたって苦労したことは

独立自営就農するための農地、ビニールハウスがなかなか見つからなかった。JA が補助事業で建設したハウスがタイミング良く借りられ、2021年7月に就農スタート。

●就農して良かったことは

自由な時間の使い方で働けること。美味しいイチゴが収穫できたときに楽しく感じること。

●現在研修中の皆さんへ

研修中は、何でも興味を持って、気になることは遠慮せずに聞くことです。

2012年度雇用創出農業研修受講生

就農10年目

伊藤園(株) 代表 伊藤吉孝さん 年齢 48歳 ※イチゴ、メロンのお店経営

① 就農地：岡崎市(旧額田地域)内 ② 栽培品目：イチゴ、メロン30a

② 労働力：自家1人、パート6人、その他スポットで農作業2人、お店4人

●きっかけは

建築関係の仕事をしているとき、家庭菜園を行ってみたところ楽しくなり、農業(イチゴ)に可能性を感じ、イチゴ農家になりたいと思うようになったため。



●イチゴを選んだ理由は

営農の軸となる品目をイチゴとして、飲食店や直売所に出品したいと思っていたから。

●就農(イチゴ栽培)にあたって苦労したことは

イチゴ農家になりたくても、非農家であるため農地がない。また初期投資も抑えたいことから、まずは農家になることとし、2013年4月にナス農家として就農をスタート。近隣のイチゴ農家に自ら声をかけて研修を依頼していたところ、研修先農家が体調不良となりハウスを貸してもらえらることとなり、2014年からイチゴ栽培を開始。

●就農して良かったことは

農業でやりたいことをやっていけば、大変とは思わないところ。

●現在研修中の皆さんへ

夢を叶えるためには、ビジョンボード(自分のやりたいことを写真にして可視化)がお勧めです。

トピックス

カンキツ類へのスマート営農体系の普及と近年の優良品種について学ぶ

9月25日(月)に本校において、「スマート営農体系の普及について」と「近年の優良品種について」をテーマに、愛知県果樹振興会カンキツ部会と本校との共催による生産高度化研修（果樹：カンキツ）を開催し、カンキツ農家及び関係機関から26名の参加がありました。

研修では、バイエルクロップサイエンス株式会社・小原氏から「みどりの食料システム戦略」の一つ、化学農薬使用量を50%低減する目標達成に向けて、①自動航行ドローン、②農業用無人車、③環境モニタリングの普及に期待するとありました。続いて、農業総合試験場・山本研究員は、中晩生カンキツ品種、「みはや」、「あすみ」、「あすき」、「璃の香」の特性、本県の品種育成状況も説明しました。

総合討議では、ドローンや無人車、パワースーツ、ゲノム編集の育種利用などにも熱心な質疑が展開され、研修会後のアンケートにも「品種の特性がよく分かった」、「新しい品種を導入する時に参考になった」などの意見が多く、有意義な研修会となりました。

**ぶどう農家における販売戦略と活用が見込まれる技術2つを学ぶ**

10月2日(月)に本校において、「ぶどう農家における販売戦略と活用が見込まれる技術（開花期無機銅剤、カラス対策）について」をテーマに、愛知県果樹振興会ぶどう部会と本校との共催による生産高度化研修（果樹：ブドウ）を開催し、ぶどう農家及び関係機関から76名の参加がありました。

この研修会では、サンケイ化学株式会社・三富氏から薬害を軽減できる「無機銅剤の利用方法について」、続いて農業総合試験場・林専門員から「カラス被害対策」の三本柱…①寄せない、②入れない、③捕まえる、について説明がありました。

果樹園やハウスでは、テグスやステンレスワイヤによる侵入防止が効果的です。最後に、経営コンサルタントの久田氏から「ぶどう農家における販売戦略」と題して、農業マーケティングの重要性、マーケティング活動の3ステップ〔市場環境分析(3C分析)⇒市場や顧客の選択(STP分析)⇒価値の提供方法(マーケティングの4P)]について詳しい説明がありました。

参加者は、いずれの講演も興味深く聞き入っていました。特に販売戦略については、分かりやすい説明で、ぶどう農家に限らず他品目の農家にも有益な内容と思われました。



農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験を行いました

9月29日(金)に行われた令和6年度入学農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験では、県内農業関係高校6校から、これまでで最多となる22名が受験しました。そのうちの4名が農業後継者、18名が非農家で卒業後は就農を考えています。専攻別では、露地野菜を希望する受験者が多くいました。

合格発表は10月6日(金)で、22名全員が入学試験に合格しました。

今後、一般推薦入学試験が、10月30日(月)に行われます。就農や雇用就農に意欲のある学生の応募を期待しています。

農業関係高等学校農場長との意見交換会を開催しました

10月3日(火)に、農業関係高等学校農場長との意見交換会を行いました。

農大の概要と近況報告、農業高校全体の動向説明に続き、農高と農大の技術交流について意見交換を行いました。昼食は和耕寮（学生寮）の寮の食事を堪能していただき、午後は校内ほ場を見学していただきました。校内見学では、農高を卒業した学生が説明と近況報告を行い、農大で成長した姿をみせる機会となりました。



和歌山県議会が視察研修に来校されました

10月16日(月)に和歌山県議会議員12名が視察研修に来校されました。本校から教育部と企画研修部の概要を説明し、本校の取り組みを知っていただきました。

特に、①新規就農希望者向けの「ニューファーマーズ研修」、②就農相談体制、相談状況について具体的に説明しました。その後「農業技術研修」のほ場を見学していただきました。

本校の敷地面積や学生数などスケールの大きさに関心が寄せられました。



お知らせ

愛知県立農業大学校 令和6年度 入学者選抜試験

●一般入学一次試験

出願期間 11月9日(木)～11月24日(金)
試験日 12月8日(金)
合格発表 12月20日(水)
試験科目 数学Ⅰ、小論文（800字以内）、面接試験
募集人員 定員100名の内、推薦入学合格者を除く数



※ 詳細は、本校ホームページを御覧ください

岡崎市農林業祭で出店します

11月4日(土)午前9時から岡崎市の乙川河川敷右岸で行われる岡崎市農林業祭で農大の農産物を販売します。とれたての野菜、鉢花、花苗などを販売しますので、ぜひお越しください。なお、駐車場がありませんので名鉄の東岡崎駅を御利用ください。

予告

農大祭2023を開催！！

愛知県立農業大学校は、農畜産物販売などを通して地域の方との交流を図り、農業大学校を身近に感じ、愛知県の農業の魅力を発信することを目的に「農大祭2023」を開催します。

■ 開催日時

12月2日（土）午前9時から午後1時まで（入場開始 午前8時30分）

■ テーマ

農を感じる！大ナミックに！！祭高の一日を！！ ～農！大！祭！～

■ 主な内容

① 農畜産物の直売、食品バザー

各専攻で育てた鉢植、切花、米、果樹、野菜、卵などの直売。五平餅、豚汁、フランクフルト、プリン、クッキーの販売など。

② 農業大学校のPR

各専攻のパネル展示、農大キャンパスツアーを行い、農大を知るとともに魅力を発信。

③ 各種団体・企業ブース

農業大学校に関係する団体、企業がブースを出展し、展示や即売。

※駐車場は例年混雑するため、公共交通機関を御利用ください。

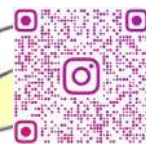
<公共交通機関の御案内>：名鉄美合駅下車 南へ徒歩10分

※現在、敷地の一部が工事のため、入場口は車両、徒歩ともに北側入口の1か所になります。

2023年12月02日



Follow Me !!



<農大祭注意事項>

1 開催日時：2023年12月2日（土）午前9時から午後1時

2 受付・入場：午前8時30分から

3 環境に配慮してレジ袋はありませんので、エコバック等をご持参ください。飲食の食べ歩きを禁止しています。飲食については休憩スペースをご利用ください。